

今月の安全運転管理

暗い道 上向きライト(ハイビーム)で 事故防止

①凍結路など冬道の事故防止対策を講じる

- 凍結しやすい危険箇所を周知しよう
- 冬道での危険な行為を理解しよう

②譲り合い運転を実践させる

- 高齢歩行者に道を譲ろう
- 夜間走行ではヘッドライトの照射範囲外に注意しよう



凍結しやすい危険箇所を周知して事故防止

昨年の十二月、凍結路面が原因によって十台が絡む大規模な衝突事故の発生が報じられました。この時期は、たとえ雪が降っていないくても路面の凍結に注意が必要です。そこで、路面が凍結しやすい条件や場所を周知しておきましょう。

たとえば、路面凍結は、冬の降雪後の晴れた日の朝や、夜間、温度が下がったときなどに発生しやすくなります。

路面が凍結しやすい箇所は、橋の上やトンネルの出入口付近、日陰が挙げられます。

また、多くの車が発進とブレーキを繰り返す交差点では、積雪が車の排熱によって溶けるため、路面が濡れた状態になります。その部分が夜になり気温が下がることで凍結しやすくなります。

このような危険箇所では、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハ

ンドルなど急のつく運転は入リツプを招くため、絶対にしないように指導しましょう。

「ジワッとペダルを踏む」「静かなハンドル操作をする」を、心がけるよう周知してください。

高齢歩行者に道を譲る指導をしよう

愛知県警が発表している過去五年間(上半期)の交通事故死者統計では、二月に高齢者の割合が高くなっています。そこで、事業所においては歩行者を守る運転の実践として、高齢歩行者を見かけたら道を譲ることを指導しましょう。

高齢者は道路を生活スペースの延長としてとらえ、横断歩道を利用せずに道路を横断したり、道路の真ん中を歩くなど、運転者にとって危険な行動をとりがちです。

このような高齢者の危険な行動を従業員に理解させ、高齢歩行者を見かけたときは、減速

もしくは停止してその動静に注意し、危険な行動をとるおそれがある場合には、道を譲って安全を確保することを指導しましょう。

夜間走行の注意点の周知と早めのライト点灯を指導

夜間走行では、ヘッドライトによって危険を発見しますが、ヘッドライトは必ずしも進行方向のすべてを照らしてくれるわけではありません。

たとえば、右カーブでは、ヘッドライトは道路の外側を照らすため、カーブの先の歩行者を予測することが必要です。

夜間走行では、ヘッドライトの照射範囲外にも目を向け、早めの危険発見に努めるように指導してください。

また、愛知県の二月のライト点灯目安は、午後四時三十分です。点灯時刻を事業所に掲出するなどして、従業員に徹底させましょう。